

甲状腺クリーゼの患者様へのお知らせとお願い

当院は、厚生労働省及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構の研究班が実施する「甲状腺クリーゼ：多施設前向きレジストリー研究」に協力しております。得られた成果は、病気の予防や診断・治療の向上に役立てたいと考えております。

このため、新規に甲状腺クリーゼと診断された方について、調査へのご協力とご理解をお願い申し上げます。

研究の目的及び意義：

コントロール不良な甲状腺機能中毒症では、感染、手術、ストレスを誘因として高熱、循環不全、ショック、意識障害などを来し、生命の危険（致死率 10%以上）を伴う場合がある。このような生命を脅かすような甲状腺中毒状態は甲状腺クリーゼと呼ばれている。発症機序は不明であり、臨床的所見によって定義されている。多臓器における非代償性状態を特徴とし、高熱、循環不全、意識障害、下痢、黄疸などを呈する。的確に甲状腺クリーゼを診断し、早期に治療を開始することが肝要である。我が国においては、年間約 150 例発症し、致死率は 10%以上である。後遺症として、不可逆的な神経学的障害（低酸素性脳症、廃用性萎縮、脳血管障害、精神症）が少なからず認められる。赤水研究班では、「甲状腺クリーゼ診療ガイドライン 2017」を作成した。この診療ガイドラインの有用性を検証するとともに、甲状腺クリーゼの予後に影響する要因を解明することを目的に、甲状腺クリーゼの多施設前向きレジストリー研究を実施する。

対象者：

赤水班において登録可と認められた医師により登録された甲状腺クリーゼと診断された患者

研究期間：

平成 30 年 2 月 1 日から平成 35 年 1 月 31 日

【ご協力いただきたいこと】

- あなたの病気に関する診療情報（カルテに記載されている検査結果など）を、調査のために使わせてください。

【ご協力にあたり、ご理解いただきたいこと】

- あなた個人に、お電話などで直接問い合わせることは一切ありません。
調査は、あなたの主治医が、カルテに記載されている検査結果などを、愛媛大学大学院医学系研究科内に設置したデータ集積管理システムである REDCap に、適切な管理のもと、オンラインでデータを送信します。
- あなた個人の情報は、厳重に管理します。
調査票には、あなたの「性別、生年月（日は除く）、居住地（都道府県まで）」を送信します。しかし、「カルテ番号、氏名、住所、電話番号」など、個人を特定できる情報は送信しません。
調査票の内容は、プライバシー保護のため、個人が特定できないような単なる数字の情報に置き換えて集計します。調査結果を公表する場合も、個人名が出ることはありません。
- この調査に関してご質問などございましたら、主治医または下記までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】

愛媛大学大学院医学系研究科疫学・予防医学 三宅吉博
791-0295 愛媛県東温市志津川
Tel: 089-960-5283
Email: epi-prev@m.ehime-u.ac.jp

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業

研究課題：ホルモン受容機構異常に関する調査研究

研究代表者：赤水尚史

研究分担者：三宅吉博

国立研究開発法人日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業

研究課題：ホルモン受容機構異常症診療ガイドライン作成ためのエビデンス構築に関する研究

研究代表者：赤水尚史

研究分担者：三宅吉博